

島根の地域医療

第72号

2020/6/19

SHIMANE
AKAHIGE
BANK



発行者 島根県健康福祉部
医療政策課医師確保対策室

今回の紙面

- ◆ 地域医療最前線 NO.77 《国立病院機構 浜田医療センター 院長 飯田 博》
- ◆ 研修医のページ NO.58 《大田市立病院 初期臨床研修医 2年次 吉原 健》
- ◆ 臨床工学技士さんのページ 《「高度医療を支える機器のスペシャリストとして」
島根県立中央病院 臨床工学科長 藤井 義久》
- ◆ 事務長さんのページ 《「島の医療人（事務屋の魅力）」
隠岐広域連立立隠岐病院 副院長（事務部門）齋藤 英典》
- ◆ 赤ひげバンク ◆ 編集後記



地域医療 最前線

No.77

国立病院機構 浜田医療センター

院長 飯田 博



浜田医療センターは、平成21年11月に浜田市黒川町からJ・R浜田

駅の北側の浅井町へ新築移転し、同時に成人病予防センターを統合し健診センターとして病院機能を充実させました。現在の標榜診療科は28科、病床数は365床で、救命救急センター、地域がん診療連携拠点病院、地域災害拠点病院、地域医療支援病院、臨床研修病院などの指定を受け、県西部の中核病院としての役割を担っています。また、附属看護学校を併設し、深い医学的知識と確かな看護技術習得を目標に看護師の養成を行っています。この時期、医療現場では新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、このウイルスと戦いながら入院治療をされている患者さんが沢山おられます。そしてその傍らには医師や看護師をはじめ、多くの医療スタッフが

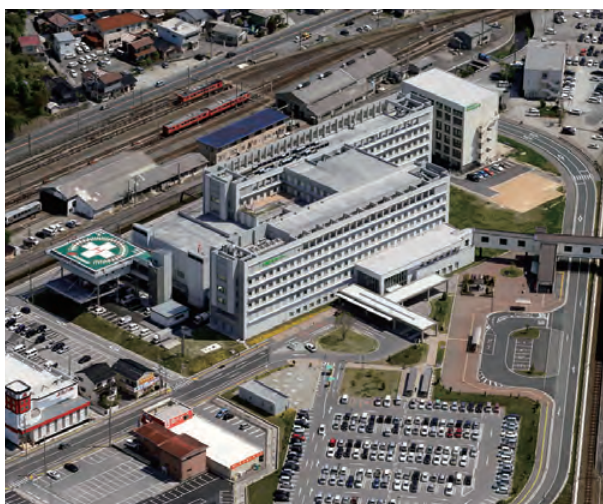
様々な苦難に直面しながらも、使命感を持って医療現場の最前線で日々懸命にこのウイルスと戦っている姿があります。感染症指定医療機関でもある当院においても、4月9日に島根県初の陽性患者さんが出てからは、毎日のように発熱外来で患者さんのPCR検査を実施しております。また何時でも陽性患者さんの受け入れができるように、感染症病床がある病棟スタッフを中心にシミュレーションをしています。

医療は地域のインフラで、社会生活を営む上で欠かすことはできない部門と考えています。当院の基本理念は、「医療を通じて、地域で生きる」を支援するです。当院は浜田医療圏域において高度急性期医療を提供するとともに、地域住民の皆様の多様な要望にも対応していかねばならないと考えています。

現在地域医療構想が進み、圏域ごとに地域包括ケアシステムの構築が急がれています。各病院はその中で役割を明確にし、全体として地域住民の皆様に質の高い医療サービスを提供できるように求められています。浜田圏域の高齢化率はすでに35%を超えています。高齢化が進むにつれて、治療や完全な回復が望めない患者さんの割合は多くなる一方です。そのような状況下では、地域の実情を理解し、個々の患者さんが満足できるような医療サービスが

提供しなければならぬと考えています。疾病治療がゴールではなく、慢性疾患や機能障害を抱えた患者さんが、いかにして地域の中で平穏に暮らしていけるようにするかを調整することが目標となってきます。

「治す医療」には質の向上が求められ、「支える医療」には病院・介護・在宅を担う多職種が連携しながら患者さんの価値観を共有することが必要です。患者さんが「地域で生きる」ことを全てにおいて支援できるわけはありませんが、地域包括ケアシステムの中において医療のあり方は変化していかなくてはならないと考えています。この理念をもって地域に貢献できる病院にしていきたいと思っています。



浜田医療センター

とある研修医の半生

大田市立病院 初期臨床研修医

2年次 吉原

健



医局にて（向かって左が筆者）

平成31年4月より、初期臨床研修医として大田市立病院でお世話になっております。今回この「島根の地域医療」に投稿させていただくことになり大変光栄です。医療現場に関するお話は、他のベテランの医師・看護師さんの方が何万倍も貴重な経験をされていることと存じますので、私は研修医として、医師を志したきっかけ、島根で働くことを決意した理由、そしてこの1年間の研修医生活について執筆させていただきました。駆け出しのヒヨッコの人生談ですので、息抜き程度に読んでいただければ幸いです。

んでいただければ幸いです。

まず医師を志したきっかけについてです。いきなり少し暗い話になってしまい申し訳ありませんが、私は8歳の時に祖父を亡くしました。当時はよく分かりませんでした。今振り返ると脳梗塞後の誤嚥性肺炎であったと思います。幼い時のことで曖昧さが多い記憶ですが、面会に訪れるたびに主治医の先生がしゃがみ込んで話し掛けてくれたことは今でも鮮明に覚えています。その頃から漠然とですが「将来は優しくてカッコイイお医者さんになりたい」と思うようになりました。それから一生懸命勉強して10年後に医学部の合格通知書が届いた時、こみ上げてくる感情を我慢できず涙を流したことを覚えていきます。

次に島根で働くことを決意した理由についてです。私はポリクリの地域実習において計6週間ほど大田市立病院で実習させていただく機会がありました。恥ずかしながらも当初希望した理由は「出雲に近くてのどかな雰囲気だから」というものでした。しかし実習が進むにつれて意識も変わっていききました。というのも、病院スタッフの方々がいつも笑顔で挨拶をしてくださり、実習生である私を常に気にかけて話し掛けてくださったからです。そういった温かい雰囲気から心惹かれ、気が付いたら迷うことなく採用試験を受けていまし



新病院をバックに指導医と同期とともに

た。医師国家試験を無事に合格し、幼い時からの憧れであった白衣を身にまとい、ついに研修医として医療現場に立つことができました。

しかしいざ働き始めると、国家試験での知識と、実際に現場で求められる知識のベクトルの違いに打ちめられました。学生時代の勉強では、薬の商品名や用量、希釈方法など全く学ばず、救急外来に初めて入った時には無力さに唇を噛み締めました。慌てて医学書を購入し、輸液、抗菌薬、栄養、画像診断など毎日ノルマを決めながら、勤務後は眠くなるまで本を読み続けました。医局の先生方も皆優しく、検査や手技がある時には診療科の垣根を越えて見学させていただきました。日々がむしやりにしがみついているうちに、

早いもので研修生活も残り10か月となりました。周囲の環境に恵まれたおかげでここまでやってこられたのだと思います。この島根の土地で受けた多大な御恩を、いつの日か一人前の医師になってお返しできるように精一杯精進して参りますので、今後とも皆様のお力添えを何卒よろしくお願い申し上げます。

臨床工学技士さんのページ

高度医療を支える機器のスペシャリストとして

島根県立中央病院 臨床工学科長

藤井 義久

私たち臨床工学技士は、Clinical Engineer（以下CE）とも呼ばれ、医師の指示下で生命維持管理装置の操作及び医療機器の保守点検を行うことを業務としていきます。救急部門から一般病棟まで院内のさまざまな部署で従事し、横断的に動くことで専門職としての役割を發揮しています。

技術支援として、新型コロナウイルスで注目を浴びているECMOを用いた呼吸や循環管理、人工呼吸器をはじめとする生命維持管理装置のセッティングや動作確認を行い、安全確保に努めています。また、代謝機能の一部を代替する血液浄化治療や専門性の高い心臓カテーテル検査



重症患者管理：ECMO操作風景



心臓外科手術：人工心肺操作風景

や手術室業務において、医師や看護師と共にチーム医療の一員として活躍しています。医療現場において医療機器及び医療器具は不可欠であり、多様化・高度化に対応するために、技術支援だけでなく、管理を同時に求められる場面が増えています。

CEは生命維持管理装置に限らず院内全ての医療機器に関与する必要性があり、資源の効果的かつ効率的投入のため医療機器管理に重点を置いています。また、診療放射線技師や臨床検査技師等の他職種（コ・メディカル）とともに専門性を生かし、質の高い管理を実施しています。2007年より医療機器管理システム『匠』を導入し、約3,500台の医療機器を管理しています（I

Cタグ運用）。これにより医療機器ライフサイクルの情報一元化と事務的処理が円滑かつ迅速に行え、状況把握や管理が容易となりました。2019年度の点検実績は日常点検25,507件、定期点検1,586件（院内保守・61・5%）でした。医療機器の異常や故障が発生した場合にはCEが現場に向き迅速な対応に努めています。2019年度修理実績は960件（院内対応・51・4%）でした。CEは院内に24時間365日常駐し、現場からの緊急要請に備えています。今後も治療の遅延防止や医療機器のダウンタイム短縮に努めてまいります。経営面からも『匠』を活用することで、医療機器の購入及び更新等の将来的なビジョン（中期的・長期的戦略）を持つた効果的な医療機器整備を目指しています。また、

日頃から医療機器の使用方法や取り扱いについて医療機器管理安全責任者（CEが任命）が中心となり指導・計画を行っています。

CEは他の医療職種より歴史が浅く認



医療機器体験イベント 説明中の筆者

知度も低いため啓発活動も進めていません。昨年は院内及び院外で子どもを対象とした1日医療機器体験等の催し物を企画しました。今後も県民の皆さんとのふれあいの場を増やしたいと思います。また、新たに心臓植込み型電気デバイス（CIED）装着患者の遠隔モニタリング管理業務や腹水濃縮再静注療法（CART）の支援に取り組むことで院外医療機関からの要望に応えるように努め、CEの立場で地域（在宅）医療支援に関われる可能性も模索したいと考えています。

今後、医師及び看護師等多職種と協働し、当院の使命の一つである「高度で専門的な医療」を提供できるように努めてまいります。

事務長さんのページ

島の医療人（事務屋の魅力）

隠岐広域連合立隠岐病院

副院長（事務部門） 齋藤 英典

隠岐諸島は4つの有人島と180余りの小島からなり、日本海に浮かぶ楽園。とっておきの島。であり、2013年にユネスコ世界ジオパークに認定されました。当院はその中で最も大きい島である島後の隠岐の島町にあります。島後唯一の病院として「この島に住む、安心の医療」を理念に、地域医療拠点病院、救急告示病院として24時間体制で安全・安心の医療を提供できるように、職員一丸となって取り組んでいます。

現在の病院は平成24年5月に新築し、一般病床91床（地域包括ケア病床36床含む）、感染症病床2床、精神科病床22床の115床で、屋上ヘリポートを整備し緊急搬送の充実、医療機器の更新、電子カルテの稼働など医療機能の向上、院内保育所の整備による勤務環境の改善などハード面の整備が進められました。

標榜診療科は16科、歯科医師2名を含む常勤医師19名と大学等からの非常勤医師で診療体制を組んでいます。離島という地理的環境の中、医師に関しては大学、島根県から多くの診療科で派遣をいただいておりますが、



隠岐病院



“隠岐病院まめなかの祭り”オープニング双葉保育園児による双葉太鼓

ていることと思いません。当院でもマスクなどの寄贈の心強い支援もいただき、また開設者である隠岐広域連合長から「我が町の医療における最後の砦として、隠岐病院職員の誇りを胸に、一緒に日々の難局に取り組んでいきましょう」との言葉も受け、感謝と励みとして、島民を守るために、必要な医療機能の維持を最優先に、そしていざという時の備えも図り、皆が一致団結して、“ほっと一息、安らぎの島”に戻るまで頑張っていきたいと思えます。

医師確保、看護師を含めた医療従事者の確保は常に大きな課題です。そのような中、診療業務で忙しいにも関わらず、島での魅力ある医療を発信し、医療職の確保につなげたことの先生方の熱い思いを受け、「島の医療人育成センター」を立ち上げました。また昨年、離島で働きたい診療看護師を採用し、この4月に1人配置ではあるものの診療部に「診療支援室」を新設しました。医師を含めた職員の意見に耳を傾け、職員にとって働き甲斐のある病院になるよう支えていくことが、事務の役割だと考えています。

一方、経営状況としては非常に厳しく、構成自治体の財政負担も年々増加しており、健全な経営を求められています。公立病院改革プランを
 実行する中で、昨年、経営改善のためコンサルを導入、計画を策定しましたが、新型コロナウイルス感染症の影響で厳しいスタートとなりました。必要な離島医療を継続する上で、安定した病院経営は不可欠であり、一人一人の努力の積み重ねにより実現できるとの院長方針の下、実行することの難しさは何度も経験していますが、職種を超えて一丸で取り組んでまいります。

医師の働き方改革、病診連携の検討などまだまだ課題がありますが、事務職員は、裏方として、時には先頭に立って、まずは行動することが明日の離島医療につながると考えます。最後に、各医療機関では、新型コロナウイルス感染症対策に奮闘されていることと思いません。当院でもマスクなどの寄贈の心強い支援もいただき、また開設者である隠岐広域連合長から「我が町の医療における最後の砦として、隠岐病院職員の誇りを胸に、一緒に日々の難局に取り組んでいきましょう」との言葉も受け、感謝と励みとして、島民を守るために、必要な医療機能の維持を最優先に、そしていざという時の備えも図り、皆が一致団結して、“ほっと一息、安らぎの島”に戻るまで頑張っていきたいと思えます。

島根県内で働いてくださる 医師を募集しています！



まずはお気軽に
お問い合わせください！



医師募集キャラクター
赤ひげ先生

- 専任スタッフ（医師）が全国どこへでも 面談に伺います。
- ご希望に応じた医療機関の紹介や生活全般の相談に応じます。
- 医療機関や地域の雰囲気視察いただく ツアーの希望も個別に承ります。（旅費支援あり）
- 令和元年度実績

視察ツアー	12件
出張面談	6名
医師招へい	7名

島根県医療政策課医師確保対策室

〒690-8501 島根県松江市殿町1番地

☎ 0852-22-6683

✉ akahigebank@pref.shimane.lg.jp

**SHIMANE
AKAHIGE
BANK**

赤ひげバンク で検索

編集後記

『島根の地域医療』第72号をご覧いただきありがとうございました。また、お忙しい中にもかかわらず執筆いただいた皆様、ありがとうございました。島根県 HP では、令和2年4月1日現在の医療機関の医師募集情報を掲載しています。詳しくは、

<https://www.pref.shimane.lg.jp/medical/kenko/iryuo/ishikakuhotaisaku/isi-kyujin.html>

または、「島根の医師確保対策」で検索、ご覧ください。